福島の子ども保養プロジェクト活動

7年レポート 2018年度

2018.6.2【全労済プレゼンツ】

福島県生活協同組合連合会
福島県ユニセフ協会　福島大学地域環境論研究室

コヨット！ とは

コヨット！
koyotto

「コヨット！」とは、子ども保養プロジェクトの
こどもの**コ**　ほようの**ヨ**　プロジェクトの**ト**
保養に「来よう！」と誘う意味も含まれています。

目的

福島の子ども保養プロジェクト（愛称：コヨット！）は、東京電力福島第一原子力発電所の事故による被災地の子どもたちや保護者をケアする具体的な取り組みとして実施してきました。放射能によるさまざまな制約がある日常生活から離れてのびのびと過ごすことで、ストレスを解消したり、他の家族やスタッフと触れ合うことで安心感を得たりすることが、親子関係の安定につながることに大きな意味があります。発災後満8年が過ぎ、住宅地や通学路などの除染も進み、空間線量は低下してきています。また、内部被ばくは食べ物でコントロールできることもわかってきましたが、子育て家庭の不安は解消されているわけではありません。

避難指示解除や住宅無償提供の打ち切りにより帰還せざるを得ない親子への寄り添い活動も重要になってきます。これまでの7年間の活動で得た教訓を生かして取り組んでいきたいと考えております。

私たちは、今後のコヨット！の活動は、子どもの心と成長、保護者特にお母さんの心身のケアを重点的に取り組み、一日でも早い被災の終わりを被災当事者が実感できるよう努めていくことにあると考えています。

4つのコース

コヨット！では、子どもの年齢や目的に合わせてこれまで4つのコースを設定しています。2015年から「こども遊び塾」週末保養コースもスタート。いずれのコースも、子どもや保護者が心身両面から保養することを目指しています。

① 週末保養企画　就学前（0歳～小学入学前）の子どもと保護者を対象に、福島県・山形県の温泉宿に1泊2日で出かけ、子どもたちの外遊びや体験などを通した家族のリラックスタイムを支援

② 就学児週末保養企画　小学1年生～6年生の子どもたちを対象に、東京ディズニーランドや体験施設等に出かけ、子どもたちの様々な体験を支援

③ 県外受入れ保養企画　全国の受け入れ団体が企画した保養プログラム。小学生以上中学生未満の子どもたちを対象に（参加可能な年齢は各企画による）、長期の休み期間中に実施。2013年4月からは体験型の企画が満載

④「こども遊び塾」週末保養コース
2015年度新規企画として小学生を対象に森の中での自然体験

プロジェクト運営体制

就学児週末保養企画　サンパレー那須陶芸教室

週末保養企画リゾートインぼなり　流しそうめん

プロジェクト実施状況

（2011年5月9日～2019年3月31日）
（累計企画数：1,787企画　参加数延べ：84,769人）

『週末・県外受入れ保養企画』（2018年4月1日～2019年3月31日）

2018年度 実施状況

① 週末保養企画　29回　参加人数：811人
② 就学児週末保養企画 7回　参加人数：351人
③ 県外受入れ保養企画 20回　参加人数：441人
※受入団体名等については13ページ参照

実施期間

週末保養企画　：ほぼ毎週末　1泊2日
就学児週末保養企画：ほぼ毎月1回　1泊2日
県外受入れ保養企画：通年　1泊2日～1週間程度

主な費用

事前打ち合わせ費、参加者およびスタッフの宿泊費、バス借り上げ代、旅行保険費、通信費、会議費、広告費、等。

週末保養企画リゾートインぼなり

週末保養企画 天童温泉　共立社渾身の企画「お買い物キッチン」全国で展開中！

県外受入れ企画　埼玉県生活協同組合連合会

県外受入れ企画　長野県生活協同組合連合会

県外受入れ企画　生活協同組合パルシステム茨城

県外受入れ企画　大阪府生活協同組合連合会

県外受入れ企画　生活協同組合ララコープ

県外受入れ企画　子どもを応援する会「ほんわか」

県外受入れ企画　生活協同組合コープやまぐち

県外受入れ企画　いばらきコープ生活協同組合

2011.12.1～2019.3.31まで　合計企画数：636企画　参加数延べ：21,855人
① 週末保養企画　：418企画　参加数：13,950人　（うち平日企画：6企画　参加数：104人）
② 就学児週末保養企画：50企画　参加数：3,338人
③ 県外受入れ保養企画：168企画　参加数：4,567人

『おもいっきり！そとあそび』コース（2015年度で終了）

対象

環境放射線量が高い福島県中通りの保育園・幼稚園の園児

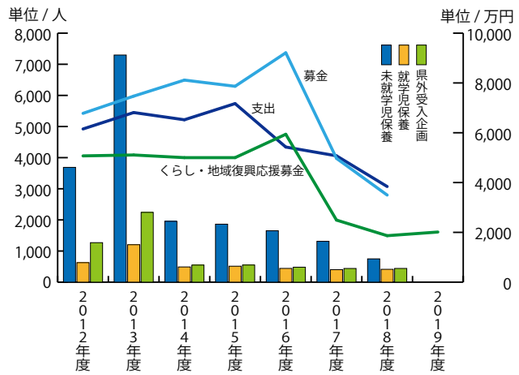
実施団体

主催：福島県ユニセフ協会／福島県生協連
共催：福島交通株式会社　福島交通観光株式会社

実施状況

期　　間：2011年5月9日～2016年3月31日
企 画 数：1,151企画
参加人数：62,914名（延べ人数）

コヨット！年度別実績＆募金・支出推移表



プロジェクトの原点に立ち返って

コヨット！
アドバイザー　西﨑　伸子
（福島大学行政政策学類教授）

東日本大震災と福島第一原発事故から丸８年が過ぎました。震災当初は、避難したくてもできない親子にせめて短期間でも被ばくの影響を減らすためにと始めた保養の企画は、就学児童への保養支援へと変わりつつあります。参加者の多くの子どもたちが、震災をまったく経験しておらず、記憶も薄れている保護者らが保養に参加するようになったため、ニーズも大きく変わってきたからです。このような時期がきたからこそ、わたしたち実施側は保養プロジェクトの原点に今一度立ち返る必要があります。

東日本大震災に限らず、大災害後の社会には、復興の波にうまく乗って、生活を立て直していける人と、状況が変わらなかったり、さらに悪化するケースがみられます。保養の支援をしていると、復興の波からこぼれおちる人たちの姿が浮かび上がってきます。コヨット！はまさしく、そのような人たちに目配りをすることを最優先して活動を進めてきました。

全国的にここ数年、社会問題としてとりあげられてきたのが貧困や格差問題です。日本は先進国であるにもかかわらず子どもの貧困率が約１４％という衝撃的な数字が 2015 年に公表されました。2016 年に福島県内の 18 歳未満の子どもを持つ家庭に対してアンケート調査が実施され（福島大学鈴木典夫教授による調査）、生活保護などの公的支援を受けている「要支援世帯」の家庭ほど保護者が子どもの学力を低いと感じていることや、教育費を負担に思っていること、自治体が実施している経済支援が必要としている家庭に十分認知されていない実態などが明らかにされました。福島県の子どもの貧困率が数値としては示されていませんが、「東日本大震災からの影響」が少なからずあることは明らかとされています。被災地には、震災前から生活保護や就学援助を受けたり、母子家庭など経済的に厳しかった家庭に加え、震災によって新たに貧困や貧困に近い状況に陥った家庭が少なくありません。震災と津波による家屋の全壊・半壊などの物的損失、父母や祖父母など仕事や家事などにより家計を担っていた家族を亡くしたことによる経済的困窮、震災後、仕事を失ったり、仕事が減ったり、避難や転職を余儀なくされた家庭が多く、子どもたちの生活に大きな影響を与えてきました。被災地では復興事業が本格化してハード面は整備されつつありますが、震災前から脆弱であった子ども支援や子育て家庭を支援するための社会サービスを充実させる施策は整備が遅く、震災は、多くの家族やコミュニティを分断したため、子どもの暮らし全体が地域社会の中で支えられにくくなっている状況が続いています。

福島県の「ふくしま新生子ども夢プラン」（最新版）において「東日本大震災からの影響」は、１）県内外の子どもの避難者数の増減、２）震災における子どもや親への影響、３）子どもの肥満傾向、４）子どもや親のストレス状況、５）期待される子どもへの放射能対策の５つの項目で示されています。子どもや親のストレス状況は、減少傾向にあるものの、地域差が大きく、放射線による不安やストレスがいまだ大きいことも示されています。コヨット！の「ほっこりママ会」や 3.11 受入全国協議会が年１～２回実施する相談会活動においても、将来への不安、妊娠による健康被害への新たな不安などは、未だ聞かれます。また、保養プロジェクト数が激減するなかで、経済的に少しでも負担がかからない保養先を探す親子の姿が見られます。リフレッシュサポートと３１１受入全国協議会保養促進ワーキングが実施したアンケート調査（2016 年）では、保養への参加費について「参加費あり」の保養が 71%を占め、一人あたりの受け入れにかかる費用が直接費・間接費含めて１プログラム（１滞在）あたり平均 79,391 円（内 40%が参加者交通費。滞在日数と実施場所の距離に応じて比例傾向）でした。

コヨット！では、保養に行きたくても経済的困窮が理由で行けなくならないように、保養の主な対象となる乳幼児（就学前の子ども）と保護者１名分の保養費用をこれまで無料にしてきましたが、これは単に経済的な支援というだけでなく、貧困の結果として子どもたちの間に広がっていく「意欲の格差」や「希望の格差」につながらないようにという願いでした。これらのことから、被災地の子どもたちに必要な支援は、外遊びに限らず、さまざまな体験を多く重ねることで精神的なつながりを作ること、子どもたちが孤独におちいらないようにすること、親子をエンパワーメント※すること、生きる力を育むこと等の多様な取り組みであると今でも考えています。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

※エンパワーメント：力をつける事。また、女性が力をつけ、連帯して行動することによって自分たちの置かれた不利な状況を変えていこうとする考え方。

全国の支援者の声

福島の子ども保養プロジェクト in なら に取り組み続けて

市民生活協同組合ならコープ
理事長　中野　素子 氏

2012 年は、大阪府生協連、コープしが、奈良県生協連との連携で小学生 49 名を関西に招くプロジェクトを実施、翌年からは、奈良での保養企画を奈良県生協連と共催で実施、親子企画としてまいりました。運営のための組合員募金を設置、福島の状況、コヨットの意義を伝え協力をよびかけています。プログラムの特徴は、奈良の歴史や文化、食や金銭教育などの体験学習と家族で過ごすフリーの日があることで、毎年抽選になるほどのお申込みをいただいています。最終日の想い出発表で、思いっきり遊べた、友達ができた、家族タイムの様子を聞くことが何よりですが、原発事故や震災がもたらした子育てやくらしへの不安に深く考えさせられます。18 年度は福島県内でのコヨットにも金魚すくい企画を持ち込んで参加、いろんな工夫を織り交ぜながら、「福島を忘れない」福島とのつながりをこれからも大切にしてまいります。

福島に心をよせて

生活協同組合コープあきた
常務理事　山野内　雅志 氏

コープあきたでは 2012 年から「親子で行く〝秋田なまはげツアー〟」を開催し、福島の子ども達と保護者のみなさまに夏の男鹿半島を満喫して頂いております。男鹿の名物〝なまはげ〟と対面するドキドキ体験の他、「秋田の大自然に触れ合おう」をテーマに、糸にスルメイカを付けるだけで簡単にできる〝かにとり〟やバーベキュー・花火等を楽しむことができます。

私たち役職員も子供の頃にタイムスリップしたかのように、期間中は福島の子ども達と一緒に秋田の夏を楽しんでいますので、子ども達ともすぐにお友達になり、私のことも「山ちゃん！」と呼んでくれます。

ツアー後に頂くお手紙には「子供がなまはげさんから叱ってもらったので〝良い子〟になることを期待しています」、「秋田の自然を満喫できました」、

「また秋田に行きたいです」等の感想が寄せられ、その度に「来年はもっと楽しんでもらう内容にしよう！」という思いになります。

このように、コヨットはコープあきたの貴重な夏の思い出となっています。

是非一人でも多くの福島の子ども達に、秋田の夏となまはげを体験してほしいと思います。

食農のミライを築く子どもの「居場所」「遊び」「参加」の拠点づくり

コヨット！は、原発事故による被災地の子どもたちや保護者をケアする具体的な取り組みとして、福島県生活協同組合連合会、福島県ユニセフ協会、福島大学と連携して実施してきました。

発災後、屋外活動を制限されて育った子どもたちの肥満傾向の割合は改善されてきたとはいえ、未だ全国的に高い水準にあります。

また、3～4年続いた屋外活動の制限は、子どもの大脳辺縁系の発達にも少なからぬ影響を与えたのではないかと考えています。

屋外活動が制限され、十分外遊びができずにきた子どもたちを外遊びに連れ出し、少しでも大脳辺縁系など健全な成長を促してあげたいと「こども遊び塾」に取り組んでいますが、単に子どもたちが遊ぶ自然を提供するだけではなく、子どもたちが「食といのちを学ぶ」場として、食育、木育、火育、食文化や伝統文化の学習の要素を取り入れたり、地域の中に里山や農業があることの役割を学び、食農のミライを築く子どもたちに関心を持っていただくとともに、こうしたフィールドで農学を学ぶ学生たちが、子どもたちとの触れ合いの中で、しっかりとした人間形成を育んでいってくれるのではないかと考えています。原子力災害と「風評」問題の中で、食の場（消費・生活空間）と農林漁業の場（生産空間）を改めて結びつけることの重要性を痛感しています。

今、こうした取り組みを県内4つの協同組合と協同組合を支援する22の団体で組織する「地産地消ふくしまネット」と猪苗代町、そして福島大学食農学類との産官学連携で進め、食農のミライに繋いでいきたいと願っています。

詳しくは、9ページをご参照ください。

将来的には、このフィールドを福島の子どもたちに限らず、全国からのたくさんの子どもたちと学生たちが集える場所にし、福島の子どもたちや学生たちとの交流が図れればとの思いがあります。

今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いします。

森の中で奏でる響き

藤野　恵美 氏

私は、この森の音楽会を担当して2年目となります。このような森の中での音楽会は、このコヨットだけです。

沼尻県有林内にて手作りのステージを作り、口笛奏者 柴田晶子さんと共に音楽会を行い子ども達と演奏する楽しみも増えました。

演奏プログラムの一つとして、柴田さんによる口笛ワークショップがありました。「山の音楽家」を題材とし、小鳥のピピピの部分を参加者全員口笛で演奏しました。すると、森の鳥たちも口笛に合わせて一緒にさえずりだし、大自然の中で皆一体となっての大演奏会となりました。誰もが持っている身近な楽器『口笛』で鳥たちとの合奏は野外活動だからこそ出来る貴重な体験だったと思います。出来るだけ多くの子どもに森の自然に触れ自然の中での音楽を心と身体で体験していただけたら嬉しいです。

2018.6.2【全労済プレゼンツ】

コヨット！ほっこりママ会【心のケア】

日本プレイセラピー協会

本田　涼子 氏

アクティビティ

コヨット！ほっこりママ会では、参加の長い方、初参加の方共に、一緒にリラックスした楽しい時間、時には自分をゆっくりとみつめる深い時間を過ごしています。ここで楽しみなことは？とお聞きしてみると、「人と会える・話せる」「子育ての話を聞ける」「聞いたアイデアを家で試せる」「アクティビティやロールプレイが楽しい」と言った声が上がりました。安全な雰囲気の中で話せる機会となり、ママたちが以前よりもよくお話ししてくださる印象を受けます。子どもとゲーム、反抗期の子どもへの対応といった子育ての悩みから、震災当時乳幼児だった子どもたちに質問されたとき、震災と原発事故、甲状腺検査などについてどのように伝えたらいいか、など、テーマは様々です。「皆もそうなんだ」とホッとし、明日からまた頑張ろうと思える大切な時間です。

地産地消推進　コヨット！ほっこりママ会【料理教室】

料理研究家

本田 よう一 氏

親子で料理してますか？お休みのお昼くらいにのんびりと一緒におにぎりをにぎるのは、どうでしょうか？レシピというよりも、おうちにある食材で OK。

梅干しやおかか、昆布の佃煮、明太子、ツナマヨ、とろろ昆布に海苔。

手でにぎってもいいし、ラップを使ってにぎっても。好きなものを混ぜ込んでおにぎりしてみませんか？

カラフル
チーズおにぎり

《 材料 》

プロセスチーズ	……	2個（角切り）
温かいごはん	……	1膳分（150g）
炒り卵	……	1個分
プロセスチーズ（アーモンド）		2個（角切り）
温かいごはん	……	1膳分（150g）
ゆかり	……	小さじ1～1と1/2
スモークチーズ	……	2個（角切り）
温かいごはん	……	1膳分（150g）
青海苔	……	小さじ1～1と1/2

《 作り方 》

1. 材料を混ぜ合わせてお好みの大きさにする。

福島の子ども達を受け入れて

福島の子ども達を受け入れて

子どもを応援する会　ほんわか
代表　田中　いずみ 氏

2011 年秋　被災地の子ども達をここ北海道でのびのび遊び、美味しいものを食べ安心して滞在してもらいたいと思い立ち上がった「ほんわか」。

ホームスティでの滞在は、遠くにいる親戚の家へ遊びに行くのをイメージしてほしいと子ども達とその保護者に説明しました。そして、ホストファミリーへの説明ではリラックス出来る環境作りをお願いしてきました。

自分の子どもが同じ立場だったら、どうするか～を考え参加者とその保護者との面会も必須事項です。常に母親目線、おばあちゃん目線でした。

「ほんわか」を運営するうえでは、初年度から七飯町には会場やバス運行のご協力を頂きました。

それでも資金繰りは大変で、地域でのバザーや自主マルシェの開催など、1年中資金集めを行っておりました。地域の方々からは、「何かお手伝いしますよ」と声かけもあり、最初は 4 人の主婦から始まった活動も年々応援者も増え最高に多い年の会員数は 300 名越えた時もありました。

勿論、助成金申請も多数応募し落選も多々ありましたが、私たちの活動を理解下さる方からの推薦もありました。

「ほんわかのびのび夏休みｉｎはこだて」のプロジェクトは、月に4回以上も会議を行い、夏休みのスケジュールを考え下見して検討を重ねたものです。ここでの参加で子ども達にどの様な変化をもたらすか?

また、子ども達の滞在中の変化など何度も話し合い次年度へつなげる為の改善をすすめてきました。また、子ども達が福島県へ帰った後、「ほんわか」に参加する前と変化はあったか?などヒアリングをしてきました。

「ほんわか」にその年参加した子どもと保護者が集う「おしゃべり報告会」を福島で行なった。子ども達も楽しめる会であり、私達と言えば「次の年も頑張れる」そんな会でした。

2012 年から始めた「ほんわか　のびのび　夏休み in はこだて」に参加した子ども達は、総勢 139 名となりました。

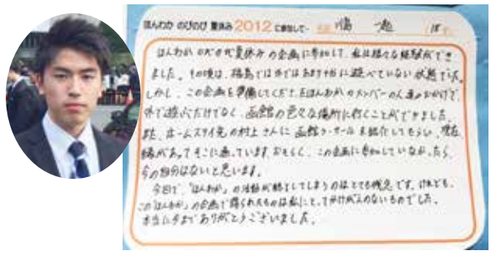
今まで参加した子ども達がここ北海道を「ふるさと」と感じてもらえたら…

遠く北海道からいつまでも応援しています。

「ほんわかのびのび夏休みｉｎはこだて」には、七飯町はじめ行政、団体の方々、「ほんわか」に賛同し会員となって支えて下さった方々、また地域でのイベントなどで応援して下さった方々など 1000 名以上の支援があり 7 年間続けてまいりました。ほんわか一期生の子どもが函館ラサール高校を受験し函館にて3年間の学校生活を行い、この3月に卒業と同時に「ほんわか」の活動にピリオドを打ち解散する事となりました。

これまで、多くの方々のご支援に感謝し、今後も函館から福島の応援をして行きます。

一期生の川島君からのメッセージ



子どもたちに人気のりんごの先生
トトロの里　冨原観光果樹園
冨原　孝一さんが
3月7日にご逝去されました。
ここにご冥福をお祈りいたします。

子どもたちの多機能型の遊びや農業・自然体験の拠点づくり

4 月、福島大学食農学類の小山良太教授、林 薫平准教授と一緒に猪苗代町の前後 公町長を訪問しました。

左から福島大学 林准教授、小山教授、前後町長、県連佐藤専務

小山先生　東日本・津波・原発事故大震災以降一度も田植えができなかったということで、大学で安全性を確認してやっていただけるのであればと福島市内 5 つの小学校から小学生と保護者に参加していただいて、昨年、酒米を作りました。そして、今年から小学校の田植えが再開したそうです。

食と農と次世代育成、これが我々食農学類の課題と考えております。

猪苗代町は、震災前からもそうですが、震災後も、子どもたちの支援もそうですし、豊かな自然を使っていろいろな産業起こしをしようとされておりますので、ぜひ地元の大学である福島大学食農学類と一緒に協力して活動できたらと思っております。

林先生　磐梯青少年交流の家が国立の組織ということもあり、福島大学と連携がとりやすい関係にあります。「猪苗代フェスティバル」という催しをこれまで年 3 回開催。今年からは年 2 回開催していくことになっています。例えば、地元の農業や健康まちづくりに関わる皆さんも一緒に“猪苗代フェス”を盛り上げて、県生協連や県ユニセフ協会で取り組んでいるコヨットで、中通りや県外各地からわんぱくな子どもたちを呼んでくるということも考えております。そういった町の中に一緒に融合していくような関係づくりを将来創っていけたらと考えております。

前後町長　私が町長になった際に一番に掲げたのは、子どもの学力の向上、体力の向上、それから幼児教育の三つです。夢と希望を与える教育をしないと子どもはついてきません。一番早いのは体力の向上だということで、スポーツ振興に取り組みました。

3 年間で県内の市町村トップクラスになるように取り組み、4 年目でやっと達成しました。やはり、子どもに夢を与えなきゃいけない。理屈だけではないんです。実際に魅力があること、子どもが関心を持つことをやらないといけない。福島大学の学長ともお話ししましたが、これからの市町村の子ども教育で何をするかというと、特色ある学校づくりをしなくてはならないと考えています。

今後、福島大学食農学類が、猪苗代町でフイールド農学に取り組む中で、高校、中学校、小学校とミックスしながら、自治体として土に親しむ子どもたちを増やしていきたいと考えています。幼児教育の中で農を学ぶことで、土にまず親しんでいただかないといけないと考えています。

小山先生　昔は、家でアヒルとか飼っていましたよね。僕東京出身なのですが、幼稚園、保育園で飼っていました。今、それはダメだといってやらないでしょう。ばい菌や噛まれるという理由で親が気にするんですよね。アヒル飼っていて、産んだ卵をその場で食べたり、焼き芋やったりしていました。今は、焼き芋は電子レンジならいいけど、火傷するからという理由で、焼いてはいけないらしいです。

佐藤専務　コヨットでも、幼児の時からきちんと自然の中で遊ぶということが非常に重要だと考えています。幼児の時から自然に慣れ親しんで、屋外で色々な刺激を受けることによって脳が活性化するということが科学的に証明されており、その活性化も 9 歳までで止まってしまうということもわかっています。

震災後に外遊びが制限されていた子どもたちをとにかく屋外に連れ出して遊ぼうということで、「こどもあそび塾」をスタートさせましたが、単に森に行って遊ぶだけではなく、子どもたちの多機能型の遊びや参加、それから居場所というものをどうやって創っていくかということで、小山先生や林先生にもご相談させていただいています。

夏休みなど長期休暇の時に、毎年約 14 の地域で、福島の子どもたちを受け入れていただく企画があります。キーワードが「体験型」といって、農業体験

や収穫体験、木工クラフト、焼き物づくりなど行なっていただいています。それが非常に好評です。福島の沼尻県有林でも思いっきり遊んでいますが、できればその子どもたちに農業にも親しんでもらいたいと考えております。

近隣の農家の方にご協力いただき、農地をお借りできないかと色々と考えていたのですが、今回、福島大学に食農学類ができ、フィールド農学をやられるということで、教育ファームのような形にしたいと考えております。そこで学んでいる学生さんたちが、そこに集まってくる子どもたちに教えていく。大学生と子どもたちは年齢が近いということもあり、すぐ仲良くなります。大学生も小さな子どもたちに自分たちが学んだことを教えていくことを通じて、豊かな人間形成が図られるという相乗効果も期待できます。そういったフィールドを県内の４つの協同組合のネットワークである地産地消ふくしまネット・猪苗代町・福島大学と産官学連携で一緒に創り上げられないかという願いを持っています。食農学類というのも日本では珍しい学類なので、全国の大学から視察に来ると思います。福島の子どもだけではもったいないフイールドになるかと思いますので、全国の子どもたちにも来てもらって、フィールドで色々学んでいただければとも考えています。猪苗代町は自然の学び場がたくさんあります。磐梯山や猪苗代湖、野口英世記念館もありますので、歴史の学びや自然の学びなどいろいろな学びができる環境になっていますので、全国から子どもたちが来てもらえるような場所にしていけると、交流人口が増え、町の活性化にも繋がるのではないかなと思っています。

前後町長　私も 25 歳まで農業をやっていました。それまでは米がどうできるのか知らなかった。今の子どもたちもそうです。トマトが木になるのか、植わっているのか分からない。それは、実際に体験しないと分からない。やはり、食の大切さを子どもたちに知ってほしい。ぜひ、全国に猪苗代町を知っていただき、大震災の風評被害を払拭したいと考えています。一緒によろしくお願いしたいと思います。

前後町長との懇談の後、関係する役場の職員の方々と今後の進め方について意見交換を行いました。

＊猪苗代プロジェクト・産官学連携について

小山先生　大学・自治体・生協連・他の団体が連携してやっていくことが望ましいと考えています。「サマンサタバサ」というブランドの会社が、私どもの「おかわり農園」に興味を示され、協働できないかとの話があります。今後、コラボすることも考えられます。しっかりと話し合っていきたいと考えています。

林先生　地域の農協や集落などが噛み合うような動きをどうつくるか。農協の祭りや猪苗代フェスティバルなどを接点にしながら、新しいイベンター要素プラス地元の集落もそこに乗ってきているというような形にしたい。イベントだけになると、誰かが来てはしゃいでいるだけになってしまう。

役場　フェスティバルやマルシェが集落と繋がっているかというと、繋がっていない。そこの作り込みをするのが大変。今、フェスティバルも修復中。

林先生　関係修復の一環としては、農協の農政連や、食生活改善普及委員会などの地元の団体からまずは結びつけて、まず地元の大豆で料理を出してみようというところから 2018 年は着手しました。今年は計画的に、先々町の人も関わっていく位置づけにしていきたい。

小山先生　集落と連携するのはかなり難しいが、集落ベースにしていくと、今後子どもたちを呼んだ際など、毎年集落を変えながら、取り組むことができる。

林先生　町の大豆の普及に、某集落が中心になって取り組んでいて、大豆などのいくつかの手がかりが今できつつあるので、そこに教育ファーム構想の接点もできてくるのではないか。今年はそこを膨らませていきたい。

役場　大豆組合がどこまで対応できるか。一個一個やっていくしかない。

林先生　「猪苗代の農業とまちづくり」「福大の地域拠点」「外からのお客さんも含めてのグリーンツーリズム教育ファーム」この３本の線がそれぞれ進んできている。段々と融合していけばいいなと考えている。例えば、食農学類の1期生が３年生になる 2021 年あたりになるとこの３本の線がもう少し有機的につながっていくような姿にできればと考えている。

小山先生　有機的に融合させるために、もう少し猪苗代の農業振興や地域政策や大学もそうですが、いろんなお祭りがいろんな主体で行われており、歴史や色もある中で、どのような組織がどのような年間スケジュールをもっているのか調べる必要がある。

例えば、猪苗代フェスティバルで募集かけて興味ある子が来るといった形になると思うので、１年間でどのようなイベントがあるのか、特に林先生が関わりあるもの、それぞれの団体が関わっているもの、コヨットで取り組むのであれば、何でコラボしていくかなどを考えていかなければならない。

福大の学生のボランタリー 10 名くらいが手伝ってほしいニーズがあるものはどこなのか、一泊で来てほしいとか、日帰りでも参加してほしいなどを組み立てていかなければならない。

先のスケジュールが読めると学生の休講措置などもできる。今の段階で言うと、まずは現状把握が重要だと思う。

林先生　いくつかの催しは、例えば農協と福大で一緒に組み立てるとか、某集落と福大でそばの祭りをやってみようなど、大きい規模じゃなくても良いので、責任を共同で分担しながら、段々と地域団体も乗ってくるような取り組みにできないか。

＊地域協定について

小山先生　目的型組織ではなく、地縁型組織が望ましい。

＊将来どこを目指すか

小山先生　将来的には民泊ツアー、コヨットもそうだが、修学旅行などで猪苗代のプロジェクトを利活用してほしい。子ども・健康・教育にはお金を惜しまない人が多いので、やはり、地域にお金がおちるということも視野に入れていかないと永続きしないと思う。

林先生　例えば、雪室の人参などを温泉街で優先的に使えるようにするなど、地域のお金にもなるようにする。

＊集落との連携について

集落への説明会などは現状未開催。現状は代表者と一緒にやっている。今後は集落説明会、集落懇談会に参加して、まちづくり協議会、むらづくり協議会などをやっていかないといけない。村の掟を入れておかないと難しい。

校長先生的な役割として地域の人にも関わっていただく。

モデル地区を作ることかな。旧市町村単位６つでアイデンティティがあるので、目標としては、まちづくり協議会や食農づくり協議会などが作れると良い。その際、６つより細かくなる可能性がある。

＊子どもたちとの関わり

年間のスケジュールに合わせて、コヨットが参加できるイベントや祭りに参加できるように今後調整していく。

＊猪苗代体験学習推進協議会について

地縁型の組織を 2021 年までに一気に持っていくのは難しい。既存の組織で、目的型ではあるが、体験、民泊や子どもの受け入れをしているので、こちらをベースにして進めるのも一つの方法。

＊まとめ

ひとつひとつ進めていく。今後企画するイベントや集落や様々な団体の年間スケジュールを把握し、学生、自治体、コヨットとの連携やスケジュールを押さえる。

2018年度福島の子ども保養プロジェクト　収支報告（2018.4.1～2019.3.31）

お預かりしている支援金

（単位：円）

科　　目	金　額
2017年度「くらし・地域復興応援募金」	18,662,713
直接お預かりした支援金計	2,522,497
市民生活協同組合ならコープ	1,050,980
福島県労働者共済 生活協同組合	600,000
平和の杜学園 むつみ幼稚園	313,718
高知県学校生活協同組合	266,114
協同組合ネットいばらき	140,348
福島県高齢者大集会 実行委員会	30,000
アトリエ ウッフッフ	20,000
その他募金	101,337
グッズ等売り上げ	870,130
預金の利息	812
これまでにお預かりしていた支援金	62,339,713
日本ユニセフ協会からお預かりした支援金	13,781,247
合計	98,177,112

2018 年度使わせていただいた支援金

（単位：円）

科　　目	金　額
事務局で使用した金額	7,625,980
電話代や切手、送料など	151,428
バス代	8,936,220
宿泊代	12,918,000
体験代などの費用等	2,496,872
年次レポート	570,000
運営委員会やスタッフ研修費	1,522,794
保険料	625,478
振込等にかかった費用	47,434
コヨットグッズ代等	1,049,631
ビンゴゲーム景品代	22,016
お菓子代	371,599
おもちゃ代	23,481
ホームページ更新他	633,000
その他	1,414,912
使わせていただいた支援金の総額	38,408,845
継続してお預かりする支援金	51,875,566
日本ユニセフ協会からお預かりする支援金	7,892,701

※参加者からいただいている参加費については、バス代・宿泊代等で相殺しています。

2018 年度にお寄せいただいた「くらし・地域復興応援募金」

組 合 名	金　額
生活協同組合コープみらい	3,786,511
生活協同組合コープクルコ	2,630,258
京都生活協同組合	2,093,649
生活協同組合コープこうべ	1,444,792
とちぎコープ生活協同組合	1,305,491
生活協同組合コープあいち	1,000,000
生活協同組合ユーコープ	1,000,000
生活協同組合コープやまぐち	635,897
生活協同組合コープかがわ	599,777
生活協同組合コープあきた	530,000
日本生活協同組合連合会・日本コープ共済生活協同組合連合会・コープ情報システム株式会社・日本生協連労働組合・コープ情報システム労働組合	521,824
生活協同組合おかやまコープ	500,000
大阪いずみ市民生活協同組合	500,000
生活協同組合コープぎふ	400,000
生活協同組合ララコープ	359,220
日立造船因島生活協同組合	350,414

組 合 名	金　額
生活協同組合共立社	346,221
生活協同組合コープながの	311,860
鳥取県生活協同組合	296,519
日生協健康保険組合(各支部健康保険委員会)	257,960
トヨタ生活協同組合	227,120
みやぎ生活協同組合	187,336
富山県生活協同組合連合会	180,000
東京南部生活協同組合	118,784
茨城県学校生活協同組合	103,598
香川県学校生活協同組合	100,000
東都生活協同組合	100,000
生活協同組合連合会コープ北陸事業連合	75,419
生活協同組合コープみやざき	66,788
長崎県生活協同組合連合会	30,000
愛媛県生活協同組合連合会(生協まつり実行委員会)	20,000
山形県学校生活協同組合	20,000
農林水産省職員生活協同組合	15,000
福井県生活協同組合連合会	12,600
合　　計	20,127,038

※ 2019 年度の活動に使用します

募金の受付口座
東北労働金庫　福島支店
普通預金　6400120
福島の子ども保養プロジェクト

支援をしてくださったみなさま

福島県外受入企画による支援（2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

2018年

- **6/30～7/1**　福島の子ども保養プロジェクトin茨城 山と海を遊びつくそう！
  生活協同組合パルシステム茨城
- **7/21~24**　福島の子ども保養プロジェクト in なら
  市民生活協同組合ならコープ
- **7/24~31**　ほんわかのびのび夏休み in はこだて2018
  子どもを応援する会「ほんわか」
- **7/24~26**　2018夏コヨット！ in とくしま
  2018夏コヨット！ in とくしま実行委員会
- **7/26~29**　コヨット in ながの チャレンジキャンプ
  長野県生活協同組合連合会
- **7/26~28**　夏休み コヨット! in 三重
  生活協同組合コープみえ
- **7/27~31**　福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ
  生活協同組合コープこうべ・兵庫県ユニセフ協会・神戸YMCA
- **7/28~30**　福島の子ども保養プロジェクト in ぐんま
  生活協同組合コープぐんま
- **8/1~3**　親子で行くなまはげツアー
  生活協同組合コープあきた
- **8/2~3**　青森の火祭り　ねぶたで跳ねyo！
  生活協同組合コープあおもり
- **8/7~9**　2018コヨットin埼玉 武蔵の国でうどんづくりと勾玉づくり体験
  埼玉県生活協同組合連合会・埼玉県ユニセフ協会
- **8/18~21**　コヨット! in おおさか 2018夏
  大阪府生活協同組合連合会
- **8/24~26**　福島の子ども保養プロジェクト in とやま2018
  富山県生活協同組合連合会
- **12/1~2**　福島の子ども保養プロジェクト in 茨城 星空観察＆サッカー教室
  生活協同組合パルシステム茨城 栃木
- **12/15~16**　福島の子どもプロジェクトinいばらき いばらきどきどき体験ツアー第22弾
  いばらきコープ生活協同組合・協同組合ネットいばら

2019年

- **3/9**　親子でたっぷり！いばらきどきどき体験ツアー
  いばらきコープ生活協同組合・協同組合ネットいばら
- **3/23~26**　2019春コヨット in えひめ親子で楽しむ体験ツアー
  生活協同組合コープえひめ
- **3/23~26**　コヨット! in おおさか 2019春 福島と大阪の子どもたちの交流ツアー
  大阪府生活協同組合連合会
- **3/24~27**　コヨット! in ながさき 2019 長崎の森と海で思いっきり遊ぼう!
  生活協同組合ララコープ
- **3/24~26**　コヨット! in やまぐち　海のわくわく体験ツアー
  生活協同組合コープやまぐち

親子で行く秋田なまはげツアー

福島の子ども保養プロジェクトinとやま2018

福島の子ども保養プロジェクトinよしまキャンプ

福島の子ども保養プロジェクト in なら

青森の火祭り　ねぶたで跳ねyo！

福島の子ども保養プロジェクト in ぐんま

夏休みコヨット！ in 三重

2019春コヨットinえひめ 親子で楽しむ体験ツアー

コヨット！ in とくしま

協力団体

2019.3.31現在

日本生活協同組合連合会
公益財団法人日本ユニセフ協会
認定NPO法人 世界の子どもに
ワクチンを 日本委員会
株式会社　ポケモン

その他団体

日本労働組合総連合会福島県連合会
福島県労働福祉協議会
東北労働金庫福島県本部
全労済福島県本部
福島県農業協同組合中央会
福島県漁業協同組合連合会
福島県森林組合連合会
茨城県農業協同組合
新潟県労働金庫
帝国ホテル労働組合
福島県高齢者大集会　実行委員会
磐梯高原リゾート・インぼなり
財）沼尻勤労者保養センター
協和交通株式会社
JTB東北 法人営業福島支店
福島交通観光株式会社
株式会社 SAGA DESIGN SEEDS
石川県立飯田高等学校
滋賀県立彦根東高等学校新聞部
平和の杜学園　むつみ幼稚園
北海道七飯町
北海道森町
政田農園（北海道森町）
トトロの里冨原観光果樹園（北海道七飯町）
フラ ハーラウ キエレ レイ

生協関連

福島県生活協同組合連合会会員生協
　コープふくしま、コープあいづ、福島県南生協、パルシステム福島、あいコープふくしま、福島医療生協、きらり健康生協、郡山医療生協、あいづ医療生協、浜通り医療生協、福島県学校生協、福島大学生協、福島県労済生協
生活協同組合コープさっぽろ
北海道学校生活協同組合
生活協同組合コープあおもり
青森県生活協同組合連合会
青森県民生活協同組合
青森県庁消費生活協同組合
生活協同組合コープあきた
秋田県北生活協同組合
みやぎ生活協同組合
宮城県生活協同組合連合会
生活協同組合共立社
山形県生活協同組合連合会
山形県学校生活協同組合
いばらきコープ生活協同組合
生活協同組合パルシステム茨城 栃木
茨城県生活協同組合連合会
茨城県学校生活協同組合
協同組合ネットいばらき
とちぎコープ生活協同組合
生活協同組合コープぐんま
生活協同組合パルシステム千葉
千葉県生活協同組合連合会
生活協同組合コープみらい
コープデリ生活協同組合連合会
埼玉県生活協同組合連合会
東京都生活協同組合連合会
東都生活協同組合
東京南部生活協同組合
北区・荒川区・足立区生協連絡会
農林水産省職員生活協同組合
生活協同組合・消費者住宅センター
東京西部保健生活協同組合
生活協同組合ユーコープ
生活協同組合うらがCO-OP
富士フイルム生活協同組合
神奈川県生活協同組合連合会
川崎医療生活協同組合
全日本海員生活協同組合
生活協同組合コープながの
長野県生活協同組合連合会
双葉生活協同組合
生活協同組合コープにいがた
生活協同組合コープクルコ
富山県生活協同組合連合会
富山県生活協同組合
石川県学校生活協同組合
生活協同組合コープいしかわ
生活協同組合連合会　コープ北陸事業連合
福井県民生活協同組合
福井県生活協同組合連合会
生活協同組合コープあいち
トヨタ生活協同組合
みなと医療生活協同組合
生活協同組合コープぎふ
生活協同組合コープみえ
生活協同組合コープしが
滋賀県生活協同組合連合会
わかやま市民生活協同組合
京都生活協同組合
大阪いずみ市民生活協同組合
大阪よどがわ市民生活協同組合
生活協同組合おおさかパルコープ
大阪府生活協同組合連合会
奈良県生活協同組合連合会
市民生活協同組合ならコープ
生活協同組合コープこうべ
生活協同組合おかやまコープ
日立造船因島生活協同組合
三井造船生活協同組合
生活協同組合ひろしま
生活協同組合連合会　コープ中国四国事業連合
鳥取県生活協同組合
生活協同組合しまね
生活協同組合コープやまぐち
山口県生活協同組合連合会
生活協同組合コープかがわ
香川県学校生活協同組合
香川県庁消費生活協同組合
生活協同組合とくしま生協
愛媛県生活協同組合連合会
生活協同組合コープえひめ
こうち生活協同組合
高知県学校生活協同組合
高知県生活協同組合連合会
生活協同組合連合会　コープ九州事業連合
エフコープ生活協同組合
福岡県学校生活協同組合
コープさが生活協同組合
生活協同組合ララコープ
長崎県生活協同組合連合会
福祉生活協同組合いきいきコープ
生活協同組合コープおおいた
大分県学校生活協同組合
生活協同組合コープみやざき
生活協同組合くまもと
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープおきなわ
日本生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
全国学校用品株式会社
株式会社コープクリーン
コープ情報システム株式会社
日生協企業年金基金
日生協健康保険組合
日生協本部健康保険委員会
れいんぼーくらぶ
公益財団法人生協総合研究所
国際協同組合同盟（ICA）
協同組合ネットいばらき
全国消費者団体連絡会

ボランティアスタッフ支援

生活協同組合共立社、日本生活協同組合連合会、桜の聖母短期大学

商品でのご支援

（2018年度）

全国の各生協自慢のソーメンが届きました。
ララコープ様、コープえひめ様、コープかがわ様、おかやまコ ープ様、富山県生協様、パルシステム茨城様、みやぎ生協様、ならコープ様、コープこうべ様
コープかがわ様から「幸せのお菓子 おいり」もいただきました。

全国各地の「いちおし農畜水産物」を送っていただき「食のこと・楽しくおいしく学ぶ取り組み」を今後企画していきたいと思っています。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

農林中金の岩上様より子ども達へと毎月文房具や果物が寄せられています。ありがとうございます。

福島の子ども保養プロジェクト紹介用ボックスを貸し出しいたします

資金難を少しでも克服するために、ひとつは、コヨットの理解を深めて、募金活動が継続できるように、コヨットの紹介用ボックスの貸し出しと「グッズを買って応援しよう！」という呼びかけを日本生協連を通じて行っています。

ボックス内容

●内容紹介タペストリー（W60×H85cm）　4枚
●参加した子どもからのメッセージ　2枚
●オリジナル募金箱　2個

スーツケースにて発送します。送料については借り側負担になります。貸出お申込みは、FAXお申込み用紙またはお申込みフォームで受付しております。

グッズを買って応援しよう！

オリジナルグッズ（絆創膏、ピンバッジ、クリアファイル、ボールペン、マグネット、トートバッグ等）を販売いたしております、イベント等でご利用下さい。売上金はすべてコヨットの募金になります。

絆創膏、クリアファイル、ボールペン　各@100円
ピンバッチ（1個）、マグネット（2個）　各@200円
トートバッグ　（W36×H37cm）　@500円
マグカップ　（200㎖）　@800円
サーモボトル（360㎖）　@2,000円

コヨット！
koyotto

「コヨット！」とは、
子ども保養プロジェクトの
こどものコ　ほようのヨ
プロジェクトのト
保養に「来よう！」と誘う意味も
含まれています。

発行元
福島の子ども保養プロジェクト（福島県生活協同組合連合会内）
〒 960-8105　福島県福島市仲間町 4-8　ラコパふくしま 4 階
TEL 024-522-5334　FAX 024-522-2295
コヨット！公式ウェブサイト　http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/